

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
法学 A		法の概念を学ぼう		井上 貴也	1 年次前期	2
科目区分	基礎	キーワード	憲法、社会規範、法律、法の体系、法の発展			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		特になし				
オフィスアワー		授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
講義の目的	法律というと難しいとか専門家のもんといった認識を持ちがちですが、私たちが日常を無事に過ごせるのも法律によるものです。社会の複雑多様化に対応して、法律の重要性は一層増しつつあります。本講義では、法の概観することにより、法の基本理念を把握することを目的として講義を行います。					
到達目標	本講義では、法的なものの考え方、いわゆる「法的思考力(リーガルマインド)」を身につけることを到達目標として講義を行います。					
講義内容	本語義では、法の概念、特質、他の規範との関係、体系、解釈などの法の基本的理念や知識を説明します。併せて、身近にある法的なトラブルの実例、新聞報道による実際の事件を紹介しながら法の世界を探検します。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	法とはなにか	規範としての法の必要性、法が主要な規範たる理由			
	第2講	法の特質	行為規範、社会(他律)規範、強要規範としての法の特質			
	第3講	法と他の社会規範との関係	法と道徳、慣習、宗教、戒律等の規範との違い			
	第4講	法の歴史	法の成り立ちと歴史			
	第5講	法の法源(1)	法源の意義と種類、制定法・判例法主義の国			
	第6講	法の法源(2)	制定法、判例法、慣習法、条理とその役割			
	第7講	法の体系	憲法、法律、命令など(政令、省令、条例)			
	第8講	法の分類	公法と私法、実体法と手続法、普通法(一般法)と特別法			
	第9講	法適用の原則	所管事項の原則、後法優先の原則、特別法優先の原則			
	第10講	法の解釈(1)	法の解釈の必要性和種類			
	第11講	法の解釈(2)	有権解釈(立法解釈、行政解釈、司法解釈)、学理解釈			
	第12講	法の解釈(3)	文理解釈、論理解釈(拡張解釈、縮小解釈、類推解釈など)			
	第13講	法と権利	法における権利、権利の行使と濫用			
	第14講	法と義務	法における義務、権利・義務の主体と客体			
第15講	まとめ	新聞記事やニュースを素材に考えよう				
指導方法	授業は、講義形式で行います。なるべく皆さんの身近な問題、話題となった事件等を取り入れ、具体的に説明を行ないます。日ごろの法律問題等に注意を払い、学習に役立てるようにして下さい。					
事前学習	本講義で学ぶ内容は、法律全般に渡るため、下記の参考文献等を参考にして、講義スケジュールの各項目について、レジュメを事前に予習して下さい。約1時間30分を目安とします。					
事後学習	授業で説明したキーワードや概念を整理しておいてください。具体的指示は、当日の授業でします。事後学習に要する時間は、目安約1時間30分です。					
成績評価方法	本試験(筆記試験)70%、平常点(授業内課題)30%の結果を総合して評価します。					
テキスト	特定のテキストは使用しません。毎回、レジュメを用意します。					
参考書籍	伊藤正巳・加藤一郎編「現代法学入門〔第4版〕」(有斐閣)1200円(+税)、「ポケット六法(令和6年度版)」(有斐閣)2200円(+税)。授業で紹介します。					
実務家教員による授業	教員	経歴				
特記事項						